

令和7年度

## 第4回 新宿小学校学校運営協議会

日時: 令和8年2月26日(木) 14:00～16:00

会場: 新宿小学校2階 メディアルーム

司会: 矢澤(副校長) 記録: 一反田(教務主任)

### 《参加者》

#### 学校運営協議会 委員

木下 英雄(田名公民館 館長)  
吉田 勝文(上溝公民館 館長)  
成井 正志(なるベリーファーム 園長)  
河合 優輝(相模原市青年会議所 理事)・・・欠席  
二宮 昭夫(新宿小学校 校長)

#### 地域学校協働活動推進委員

佐々木 新悟(上溝地区主任児童委員)

#### 学校と地域の協働推進コーディネーター

迫 加津旺(上溝地区自治会連合会副会長)

#### オブザーバー

原 枝美(新宿小学校PTA 副会長兼書記)  
鈴木 よし恵(新宿小学校PTA 副会長兼書記)  
田中 智恵子(新宿小学校PTA 副会長兼書記)・・・欠席  
長谷川 恵美子(新宿小学校PTA 副会長兼書記)  
石黒 貴子(新宿小学校PTA 副会長兼書記)  
山本 佐智子(新宿小学校PTA 副会長兼書記)・・・欠席  
星野谷 雪絵(新宿小学校PTA 会計)・・・欠席  
羽深 めぐみ(新宿小学校PTA 会計)

#### 教育委員会

藤原 啓(学校教育課 指導主事)

#### 事務局

矢澤 圭子(新宿小学校 副校長)  
一反田 修平(新宿小学校 教務主任)  
菅原 実千子(新宿小学校 学びコーディネーター)  
上野 真由美(新宿小学校 児童支援専任)

### 1 開会あいさつ(校長)

- ・今年度最後の学校運営協議会
- ・これまでの協議会では、今後の方向性を考えることができた

### 2 教育委員会あいさつ(学校教育課 藤原 啓 指導主事)

- ・コミュニティースクールは生き物。成長することができる。子供、大人が成長すること で地域も成長できる。
- ・子供たちの成長はまわりを取り巻く「もの・こと・ひと」が大きく関わっている。その 成長に学校運営協議会の関わりは少なからずある。
- ・相模原市の半数の学校はコミュニティースクールを手探りではじめ、とにかくやってみ ようとしている。
- ・課題を出し合い、協議を深めながら進めていければと思う。

### 3 令和7年度の振り返り(校長)

学校評価アンケートの結果より  
保護者アンケートより

- 教師の授業改善は高いが子供が人の話を聞く、本を読む楽しさは低くなっている。
- 異学年交流は高くなっている。
- 相談への対応は高く、子どもたちのあいさつには課題がある。が昨年よりは高い。
- 体調不良への対応は高く、清掃活動に対しては低い。
- 地域とともにの項目では全般的に高まっている。

#### 自由記述

- 教室では学べないことが経験できるのがよい。
- 体験的に学ぶことが増えた。
- 子供の自主性を大切にしてくれている。
- 地域との交流が盛んになり、地域から見守られている。
- 時代に合わせたさまざまな取組がある。
- 学習面の向上が課題である。
- わからない時に相談できる環境があるとよい。
- 校舎が汚い。
- 更に地域との関わりを増やし、家庭を含めて地域の活動に参加できると良い。

#### 職員アンケートより

- 子供たちは意欲的に学習している。授業改善は高くなっている。
- 人の話を聞く、本を読む楽しさは低くなっている。
- 主体的に行動するは低い。
- 約束やきまりを守るは高い。
- 運動の楽しさは低い。
- 地域との連携は非常に高くなっている。

#### 子供のアンケートより

- 人の話を聞いている。意欲的に学習している。
- 自分の考えを話すことが苦手。
- 本を読むことを楽しんでいる。
- 仲良く生活している。意欲的に活動している。
- 状況把握、相談への対応は高い。
- 清掃活動、思いやりの気持ち、運動への楽しさは高い。



#### 4 協議

##### (1)今年度の学校経営の評価について

佐々木さん

あいさつ、清掃は大人から見るとできていない。だが、子どもたちはやっていると見てい る。大人はあいさつを元気に大きな声を求めているのに対して、子供は目を合わせる、会 釈を挨拶と捉えている。

主体的の捉えが子供は難しい。仕組み作り、しかけが必要。先生方は努力している。  
エビデンスより「読書のしすぎも良くない」「まんがなども効果的」  
今の子供は漫画を読まない。動画視聴になる。漫画の文字が追えない子供が増えた。

成井さん

学校の進化に驚いている。アンケートの取り方も素晴らしい。  
農業のよさ、食に関することを伝えることで学校運営協議会事業に貢献できた。  
五感で味わい、記憶に残ることで話すことにつながる。  
体験を通して感じることの重要性は感じている。

迫さん

体験前に話をよく聞いてくれているが、自分から話すこと(質問すること)は少ない。  
吊し柿などの体験はとてもよい。できるだけ多くの子供に体験してもらいたい。  
学校の畑を活用し、学年ごとに野菜等を育てていきたい。  
異学年交流はどのようなことを行っているのか？  
→ペア学年での活動を実施している。ロング休みの交流。運動会での競技。

吉田さん

ぽかぽかルームに参加した。  
アンケートの結果は子供、保護者、教師に大きな差はないと考えている。  
今後もコミュニティースクールにアイデアを出していきたい。



木下さん

田名の本屋がなくなり、本が身近から離れていっている。  
書く、読むから記憶、脳の活性化が進む。  
本を読める環境を子供に提供すると良い。環境整備が重要。  
映像(CM)の影響力が強い傾向がある。ゆったりと過ごすこと(時間)も重要。  
ぽかぽかルームの活用、不登校児への課題、個々への対応を個々で行っていくため  
民生委員を中心に人材を確保していきたい。  
高齢者だけではなく、児童と関わってくれる民生委員を探していく必要がある。  
定年が延長し、60代で時間にゆとり、社会貢献に時間が避ける人が少なくなった。  
教職員の地域貢献、意見交換、手伝いが保護者の意識を変えることができる。  
地域の子供に関連する行事に教職員の参加が子供行事の活性化につながる。  
個々への目配り、気配りは重要

藤原指導主事

主体的・・・「自分から」を使わないのは？  
必要感を理解して行動するのが主体的「なんでやるんだろうか？」の理解  
大人が集まって同じ子供を見ているので、関わり方を共有することがこの会の意義

ぽかぽか担当(上野)

開設2年目、軌道にのりはじめた。不登校支援、学級の児童の心の安らぎの場  
教師の目線だけではなく、地域の方のあたたかい目の影響力はとても高い。  
あたたかい場所作りを続けていきたい。

### 学びコーディネーター

地域学校協働本部会を2回開催した。田名地区芹沢さん、上溝地区佐々木さん出席  
学校と繋がれる人について協議ができた。

「つながる」をテーマにリスト作成

実際に繋がった事例 成井さん・・・3年 お囃子(佐々木さん紹介)・・・5年  
たなちゃん弁当・・・6年 小川のたまご・・・6年  
やまびこ工房・・・5年

地域の材、五感を使うことで主体的に取り組むことができる機会になった。

### (2) 来年度の取り組みに向けて

#### 「継続と充実」

学校経営の基本方針を基盤に学校を運営する。

コミュニティースクールの実践

地域学校協働本部「チーム・アーチ」2ヶ月に1回開催

地域と学校を繋ぐ「もの・こと・ひと」

学校はわからないことが多い。保護者、地域の協力は不可欠



### 迫さん

公民館行事を実施した際、先生の参加で子供が参加しやすくなった。

ぜひ、先生方にも参加してもらいたい。子どもたちの参加を促したい。

さつまいもの収穫、調理体験の手伝いはできる。

新小フェスタで子供が店を出せれば、、、。

### 木下さん

夏休みの学習会実施 小、中、高の誰でも利用可。お手伝いを増やしていきたい。

公民館行事は子供の参加が少ないことが課題

学力差をカバーしていきたい。

生活力が低い家庭が多いのが実態

高校生がスマホ教室を開催している。

### 吉田さん

夏休み「スタディールーム」を開催した。

新宿は何をするにも地理的に難しい・・・自治会館を活用できないか??

公民館は田名、上溝の両方とも学区外になっている。

公民館行事を子供企画でできればよいかもしれない。

子供の能力がわからない。スマホ、料理のお手伝い等は可能か??

### 成井さん

6月上旬・・・・・・いちごの体験学習

10月中旬～下旬・・・さつまいも計り体験。重さ、さつまいもを体感できる。

先生からの提案で実施できたこともよかった。

### 佐々木さん

地域資源を先生と発見していきたい。

焦らず、ゆっくりと進めて、かけ違いのないようにしていきたい。

地域の美味しいものを食べていきたい。

## 5 閉会のあいさつ

次年度、スクリレを活用してチラシ等を配信することが可能